

# 星屑

VOL. 247

November' 95



撮影者 佐伯 和久

題 のぼる冬の星座

データ

1995年8月20日 4時35分 10分露出

レンズ

20mm F5.6 フィルム 富士G-800

場所

立岡池（火の国ランドの前の池）

熊本県民天文台

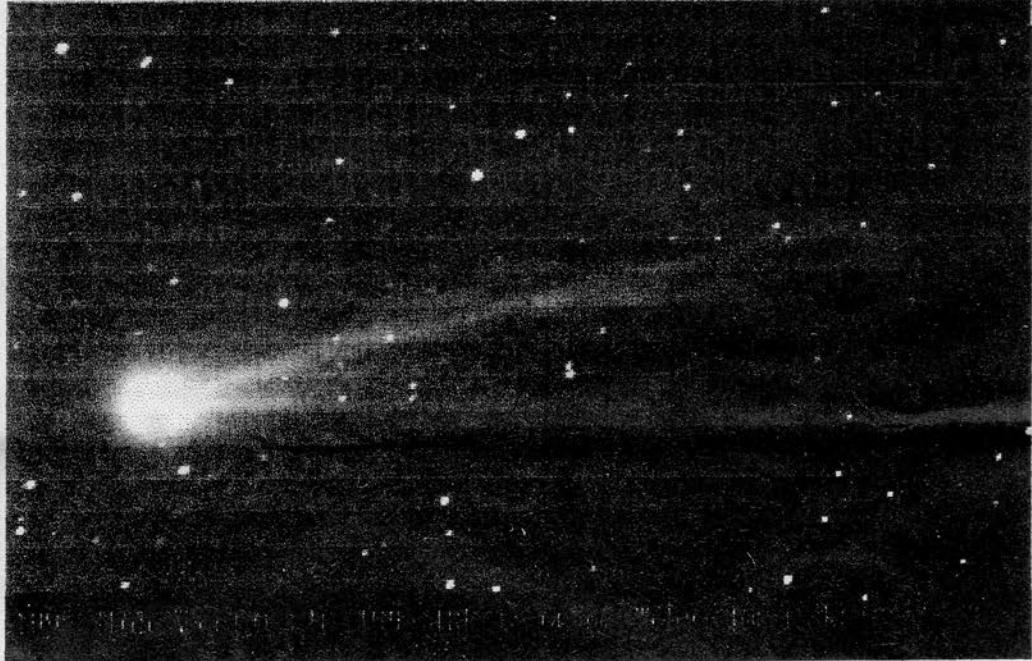
# COMET PAGE

PORCO NISET

関東地方に台風 14号が接近した後の、1995年 9月 17日早朝、電話が鳴った。電話は南小国町の宇都宮さんからで、「獅子座付近に 6等の明るい彗星があるけれど、新彗星の情報はありませんか?」というものだった。宇都宮さんの経歴から 6等という明るい天体を彗星と間違えるはずはない・・・、すると新彗星!!さあ、大変だ。いつもの連絡先である中野さんはあいにく海外だ。留守居役の中村さんの電話を教え、すぐ連絡するように伝え、また眠直し。^;

朝、いつもの時間に起床するとだんだん心配になってきた。無事、連絡は IAU中央局へ届いているだろうか?久万の中村さんに確認の電話をすると、まだ知らないと言いながら留守電話に何か入っているのですぐ調べるとのことだった。

夕方、帰宅して確認すると既に IAUサーキュラーが発行されて 1995 S1と公表されていた。発見者は 3人、いずれも日本人で皆知っている人ばかりだった。その中で宇都宮さんの発見も無事認められていて一件落着・・・安堵した。翌朝も晴れたので、早速 CCDカメラを向けて確認観測を行った。彗星は北東へ移動していた。イオンの尾が美しい、典型的なおたまじやくし型の彗星だった。(前号の表紙画像、熊日に掲載されたのも同じ画像・・・ただしショボあり)

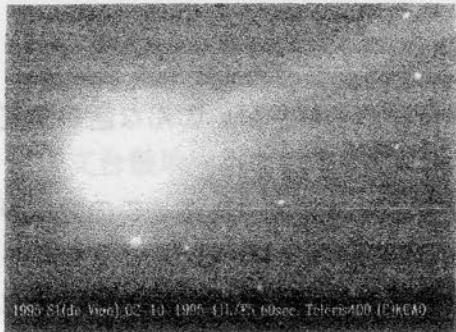


3夜の観測が集まって軌道が計算されると意外な事実が分かってきた。この星は、周期74年のド・ビコ彗星の再来だというのだ。

ド・ビコ彗星は、1846年 2月にローマ大学学長の de Vicoが発見し、5等星になって海

王星属(ハレー彗星もこのメンバー)の軌道が計算された。しかし、期待された次の回帰の 1922年に、観測されなかった星である。

星仲間の村岡さん(高知県梶が森観測所)は、この星をクロイツ群(池谷・閏彗星の仲



1995.8.(do) 1995.9.10 1995.11.5. 60sec. Telescopio 400 (E-KAO)

間）同じ要領で搜索すると見つかる可能性があるといっていたが、この再発見の知らせを聞いて「本当にド・ビコ彗星なの？」と半信半疑であった。口ではこの彗星の回帰の可能性をほのめかしていくも、本当に出現するとは思わなかつたみたい。

ただ、残念なのはこの彗星がド・ビコ彗星と分かったため、発見者3人の名前が付かなくなってしまったこと・・・ド・ビコ彗星のまま呼ばれることになった。名前はどうあれ新発見に変わりはないのだから、宇都宮さんら3人の栄誉は大いに讃えられるべきである。

本来、この星は近日点通過前に南半球で観測条件が良いので、発見されてしまうべきであった。ちょうど明るくなり始めるころ月があったのと夕空で5等級で発見された新彗星1995 Q1(Bradfield)の騒ぎで見逃されていたのかもしれない。いつも新しい星の出現はこんなものである。

さて、発見後のお天気は芳しくなく、観測らしい観測は翌月2日であった。近日点通過日が間近の彗星は全光度5.5等約2度の尾があつてコマは肉眼で見えた！

今回掲載した画像はその時のもので、10cm F5屈折と41cmF5反射で撮像したもの。頭部の細部を見るには41cmは有効であるが、彗星らしい尾の美しい姿は小口径機が役に立つ。それぞれの特性を生かした使い方があるというのだ。広視野画像での枝分かれしたイオンの尾が見事である。イオンの尾は変化が速く、しかも激しいので連続観測が望まれるが、薄明間際の出来事でそれもかなわない。日本列島の時間差に期待というところだ。

### ★ 73P/Shwassmann-Wachmann 3.



近日点通過が9月22日のこの彗星がバーストしていることが電波で観測され、光学観測依頼が届いたのは9月上旬のことだった。諸外国も含め、天文台の大きな望遠鏡はあまりにも低い高度のため観測できないようだった。幸か不幸か、KCAOの41cmは北を中心とする北東から北西以外は地平線まで望遠鏡が向く環境にある。もちろん、地上の障害物のため高度0度とはいかないけれど。ところが、KCAOは夕方は一般公開で観測できないという重大な・・・ある意味で欠陥があった。今までの西空の天体がことごとく観測できない状況が、これも幸いなことに9月から週末の3日(金・土・日)の公開に変更されたので、1週間のうち半分は観測に使えるようになった。

そこで、この彗星に41cmを向けることが出来た。18日、夕方まだ青く薄明の残る夕空で、補修の終えたエンコーダーの試験をかねてこの彗星に41cmを向け1秒露出の撮像したところ、狭い視野の片隅に星が1個だけ写っていた。ところが、よく見るとこの星には尾があった。エッ！！なんだい、こいつは！と目を疑った。アイピースに取り替えて、覗いてみると、10分以上の尾をひいた8等級の彗星があるではないか。再びCCDに代えて30秒露出を行うと周囲にこの星が73Pに間違いないことを示すGSC星が写ってきた。

先月の41Pといい、夕方の空で何が起こっているのだろう？その後、秋の長雨になって観測できないでいるが、10月になってこの星が5-6等級になっているようなのでチェックして欲しいという依頼がIAU中央局から届いている。次の晴れ間はいつだろうか・・・。

## 観測専用ドームをつくろう！

私たちの長年の夢だったドーム付き観測所をつくりたい、こんな話が天文台で持ち上がったのは7月も末のことでした。

そもそもそのきっかけは、ヘール・ボップ彗星の発見である。この彗星が発見されてからすぐに、小林壽郎さんの所に確認観測の依頼が舞い込んだ。ところが、観測できるのが夕方から夜半にかけての一般公開の時間に重なり、観測準備はできただけれど、すぐまたはずして一般公開に逆戻りということが続きました。

現在の観測は、彗星の一を決めるのが一番で、そのほか光度測定なども行っています。また、観測で得られた写真などのデータは、天文台でつくっているインターネットのホームページにどんどんのせています。しかし、今の天文の世界で、観測と言えば冷却CCDを使わないわけにはいきません。観測結果の客觀性やデータの集約の容易さなどどれをとっても、必要なことばかりです。ところが、現在の天文台の41cm望遠鏡はニュートン式で、しかも接眼部がラック&ピニオン式なのでピントの再現性に乏しく、観測を始めるまでに長い時間を要します。また、重い冷却CCDをとりつけたときには、バランスや強度の面でも心配です。

そこで、すぐに観測にとりかかれるように、冷却CCDカメラをとりつけたままにしておける、専用の観測ドームがほしいと思うようになったわけです。現在の熊本の空を考えたとき、有意義な観測を続けていくために現在持っている冷却CCDを活用できるように施設を整備していくことが必要だと考えます。

今まで、この観測所建設の話が出ては棚上げになっていた理由は、費用の問題でした。しかし、今回は建設費の拠出を申し出る人もあり、何とか費用面でのめこも立ったので、9月のTALK ABOUTにおいて建設計画が承認されました。そこで、現在設計見積を行っているところですが、早ければ年内にも完成できるかも知れません。なにせ、資金面で苦しい現在の天文台ですから、豪華なものとはいきませんが、使いやすいものにしていきたいと思います。

現在の計画を、次のページに示します。少しでもイメージして下さったらと思います。

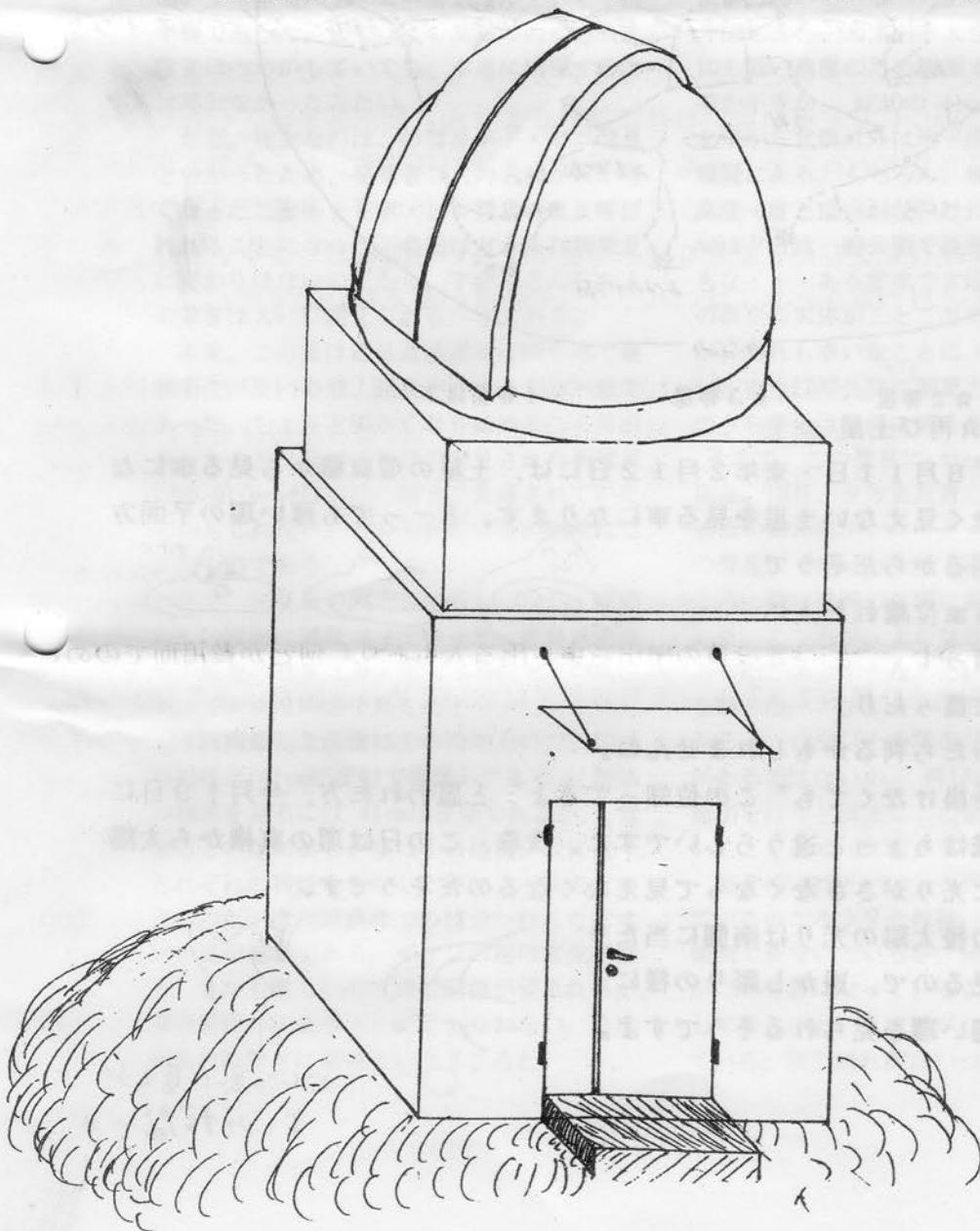
## 観測所概要

天文台敷地内倉庫の屋上に新たに設置

日新商会製 2.8mドーム

観測室は木造サイディング葺き、1階倉庫から内階段で入る

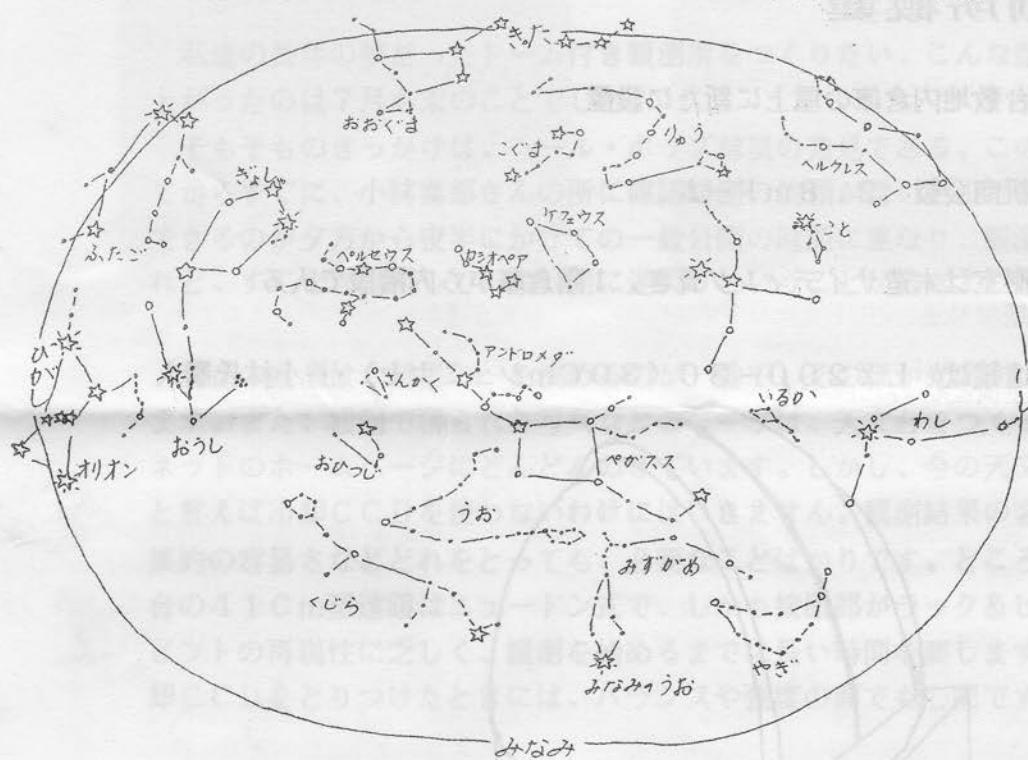
望遠鏡は LX200-30 (30Cmシュミカセ) …小林氏購入



# Keikoの星空散歩

11月上旬 ☆ 午後9.00頃

11月下旬 ☆ 午後8.00頃



★1等星

★2等星

●3等星

・4等星以下

星塵ピック・ツツ☆☆☆再び土星

5月22日・8月11日・来年2月12日には、土星の環真横から見る事になるので、環が全く見えない土星を見る事になります。とーっても薄い環の平面方向を地球が横切るからだそうで、

不思議な人は5m位離れた人に

CDを持って貰って

ゆっくり傾けて貰ったり、

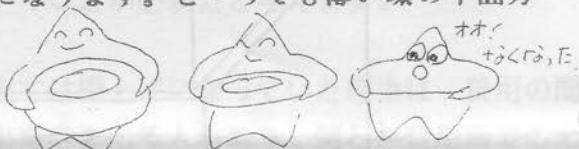
真横にして貰ったら判るかもしませんね。

こんな手間を掛けなくても”この位知ってるよ”と思われた方、今月19日に起こる環の消滅はちょっと違うらしいですよ。珠々、この日は環の真横から太陽が照るので環に光りがさきなくなって見えなくなるのだそうです。

そして、この後太陽の光りは南側に当たり、

地球は北側を見るので、透かし影りの様に

ボーッとした細い環を見られるそうですよ。

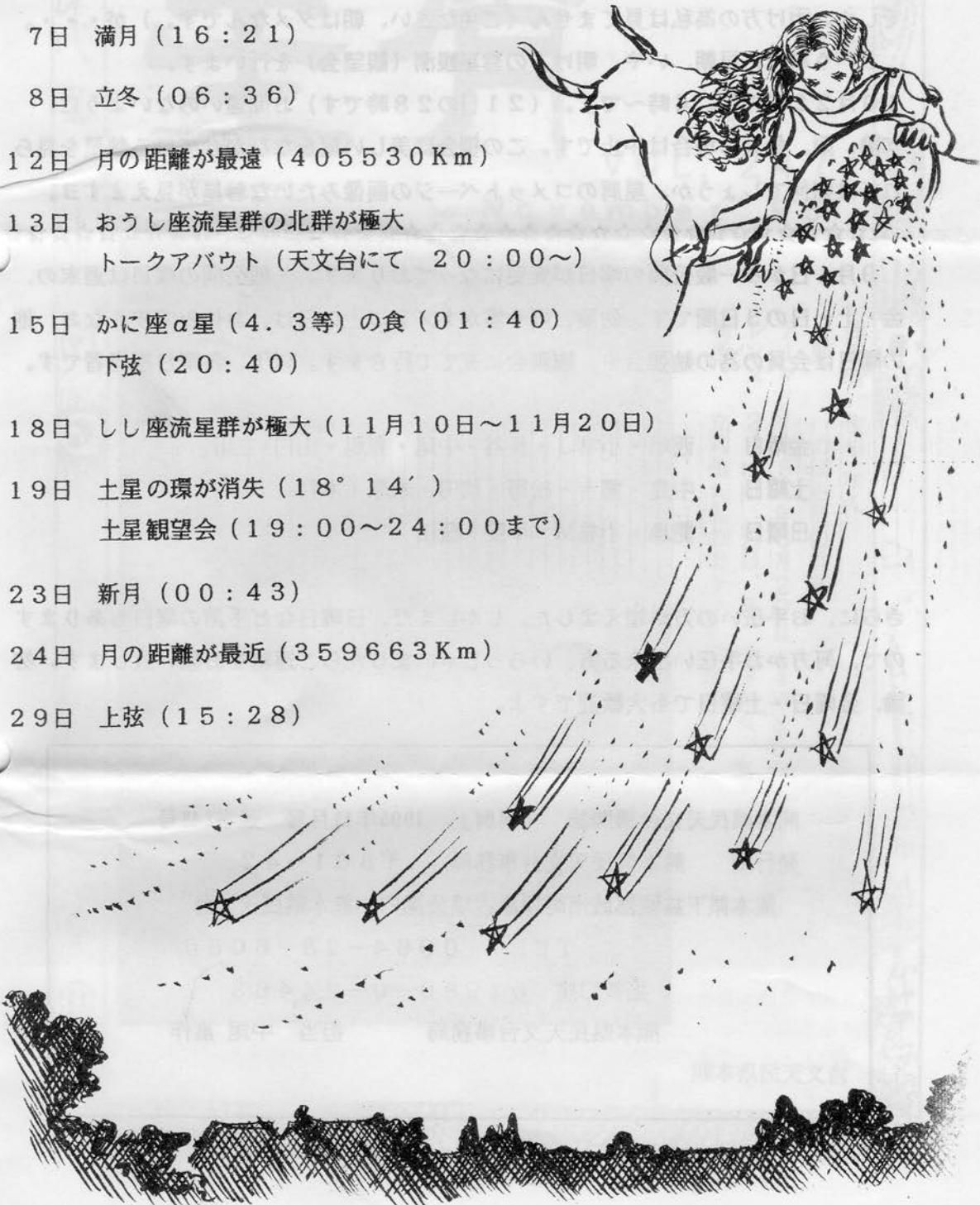


どんな風に見えろ?  
葉レミ子がね~



## ☆ 11月の天文現象＆行事 ☆

- 3日 おうし座流星群の南群が極大（10月上旬～11月末）
- 7日 満月（16：21）
- 8日 立冬（06：36）
- 12日 月の距離が最遠（405530Km）
- 13日 おうし座流星群の北群が極大  
トークアバウト（天文台にて 20：00～）
- 15日 かに座α星（4.3等）の食（01：40）  
下弦（20：40）
- 18日 しし座流星群が極大（11月10日～11月20日）
- 19日 土星の環が消失（ $18^{\circ} 14'$ ）  
土星観望会（19：00～24：00まで）
- 23日 新月（00：43）
- 24日 月の距離が最近（359663Km）
- 29日 上弦（15：28）



## ☆彗星観測会（観望会）のお知らせ☆

最近になって、大きな彗星が出てきましたね。いやー、私は デビコ彗星は見ていませんが、見た方の話では、おー、5cmの双眼鏡でよー見ゆってい、ということでした。明け方の為私は見てません（ご免なさい、朝はダメなんです。）が・・・。

という事で、早朝、いや、明け方の彗星観測（観望会）を行います。

10月22日の朝、4時～です。(21日の28時です)お間違いのないように。

勿論、雨、曇天の場合は中止です。この機会に美しい尾をなびかせている彗星を見られては如何でしょうか。星屑のコメットページの画像みたいな彗星が見えますヨ。

9月1日から一般公開の曜日が変更になっております。一般公開の曜日は週末の、金・土・日の3日間です。勿論、雨や雲が1／2以上の日は、お休みです。なお、他の曜日は会員の為の勉強会や、観測会に充てて行きます。以下、各曜日担当者です。

金曜日 西嶋・小林J・長谷・中尾・有馬・山口・立川

十曜日 中島・國吉・松野・清田・永原・木村

日曜日 艶島・小林M・甲斐・薮田

さらに、お手伝いの方が増えました。しかしある日曜日など手薄の曜日もありますので、何方かお手伝い出来る方、いらっしゃいましたらご連絡をお願い致します。勿論、金曜日・土曜日でも大歓迎ですよ。

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1995年11月号 通巻248号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-422

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL. 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

担当 中尾 富作  
熊本県民天文台事務局